

明日香村では、主に6月から各地で田植えを行います。  
田植えの前には代かきという大事な作業があり、水と土をかき混ぜることで圃場内をトロトロにし、そこに稲を植えるというわけです。



明日香村では「ヒノヒカリ」が主に育てられています。研修先では、「ヒノヒカリ」の他、「朝日」や今年から「ゆうだい21」も植えました。それぞれ特性や味の違いがありとても楽しみです。また、今年10年目を迎える田植え祭りにも参加しました。



国営飛鳥歴史公園キトラ古墳地区内の田んぼにて、古代稲である赤米「神丹穂」の田植えをイベントとして行いました。この辺りでは田植え後に小麦を混ぜ込んだ「さなぶり餅」を食べる習慣があり、皆で餅つきも行いました。



また、引き続き村内の有機栽培農家の方のもとで野菜の栽培も学びました。トマト、かぼちゃ、つるむらさき、トウモロコシ、インゲン豆、ニンジン、ビーツなど多種多様な野菜を育てており、各野菜に適切な肥料設計や栽培計画が必要です。特に土づくりを大切にしており、すべての作物に通じる大事な要素です。来月は太陽熱消毒にチャレンジです。